

☆2月・3月・4月・5月の活動☆

採集観察会のお知らせ 埼玉県入間郡日高町 「巾着田」

採集観察会 第4回 2月16日(日) 10時 雨天決行

●集合地点：西部池袋線「高麗(コマ)」駅 改札口 巾着田までは徒歩10分

駅前に適当な弁当屋さんがありませんので、昼食を御用意下さい。

世話人は平松毅久 (TEL. 0492-33-8792)

例会開催案の案内 期日・所 4月26日(日)午前10時開会 駒場住区センター

講演と懇親会 世話人は熊田憲一 (TEL. 045-413-3375)

●同封の葉書で出欠・近況(通信に掲載することあり)をお知らせ下さい。

1992年度観察会・合宿の計画(総会議案)

採集観察会の予定 東京都 「五日市町横沢入地区」

採集観察会 第1回 5月17日(日) 10時 雨天決行

●集合地点：JR線「五日市」駅改札口：世話人は新海栄一 (TEL. 0423-21-0289)

合宿の予定 5月の通信でお知らせします

総会開会報告 出席者37名の大盛況! 1.Dec.1991. 駒場住区センター 記録: 池田.

(1) 開会あいさつ 莳嶋泉 (2) 一言自己紹介 司会進行: 熊田. 映写: 平松, 谷川

(3) 午前の講演 10:15~12:00

①笛岡文雄「キシノウエトタテグモの生態その断片」: 飼育によって少なくとも10年は生存することを確認, エサ捕獲行動(歩脚で捕らえ, 牙でくわえ, 奥へ引き込む), どのようなエサが嫌われるか, メスもまた若干徘徊するなど生活史のいくつかが分かった.

②西野洋一「コムカデ類の種類と密度」: 採取した土をバケツ内の水に入れ, 浮かんでくるコムカデを針(先を曲げている)で引っかけて採集する方法(水による浮遊法)で, 1m²当たり3000頭も採れる. 40~50%で固定し, KOH処理後, 酸性フクシンで染色. ナミコムカデ, ヤサコムカデの他, 未確認種だったマツカサコムカデ, 未記録種なども採集, 記録した.

③萱嶋泉・林秀幸「日野市のクモ調査報告」: 府中市では開発に伴い, クモが急減したが, 日野市黒川公園でも長年継続調査したジョロウグモ, クサグモ, ヘリジロサラグモで伐採や薬剤散布の影響で同様のことが見られた. ヒメグモの個体数は安定していた.

(4) 午後の講演 1:15~5:10

④新海栄一「クモ類による環境評価と環境指標種について」: 調査区の種数と指標種をどう設定すれば環境を適切に評価できるかを研究した. その結果, 平野部と山間部で使用できる基準をそれぞれ考案した. 例えば山間部の指標種としてはタニマノドヨウグモ, クスミサラグモを始めとして13種を選定できた.

⑤小澤実樹「カバキコマチグモの巣形」: 裏盤根の合宿でカバキコマチグモの住居作りを観察した. その製作法や形状の精妙さに興味を持ち, 追加観察を試みた. モデル化し, 紙細工も考案した.

⑥新海明「誰も知らないかった? 円網の張りかた」: 枠糸は縦糸と同時進行する. 円網作りの最初の過程には様々なパターンが知られていたが, それは自分で確認せずに, 思い込みから生ずる誤りであった. 正しい記述は例えば『動物の本能』(岩波新書)にある. また, こしきは網の緊張を保つために重要でこしき作り行動は足場糸張り行動に連続する.

⑦前川隆敏・池田博明「究極のホンチ遊びを求めて. ハエトリグモの誘示行動」: ホンチの飼育箱

やクモ合戦をバルサ板上で行う等の方法と、ネコハエトリが求愛のときだけ「顎出し」をすること、オスクロハエトリの威嚇表示やネコハエトリの性モザイクの誇示行動の特徴を紹介した。

⑥谷川明男「シマゴミグモの実体とCyclosa confusaの正体」：シマゴミグモといわれていたクモに明らかに2種が混在しており、どちらもC. insulanaではなかった。一方は記載以来未発見だった C. confusaであり、もう一方は未記載種であった。後者の和名をシマゴミグモとする。

⑦平松毅久「ワキグロサツマノミダマシの求愛および交尾行動」：夜間、オスはいくつかの要素から成る交尾糸を介した信号を送った後、雌雄は空中ブランコのようにぶつかり合いを繰り返した。その後、懸垂型の交尾姿勢となり、片方のみ触肢を挿入した。

⑧桑原幸夫「多足類のスライド」：ムカデ、ヤスデをカラー写真で紹介した。大型のムカデのトビズムカデで足が赤くない個体（オズムカデと誤りやすい）がいる。また、ニクイロババヤスデには赤、黒、青の色彩多型がある。今年、キシャヤスデが十国峠などで大発生した。（来年も有）

⑨篠原圭三郎「ミナミヤスデの学名」：先年、沖縄で大発生したミナミヤスデはTrigonius takakuwaiとして知られてきたが、Golovatch et Korsos (1990)は T. lumbrecinus (Gerstaecker, 1873)とした。熱帯地方にはば広く分布していて、人為分布の可能性もある。

（講演にはKISHIDAI Aに発表予定のものや、日本蜘蛛学会誌に掲載予定の論文もあります）

（5）閉会あいさつ 佐藤幸子 （6）懇親会 乾杯・あいさつ 篠原圭三郎

参加者（50音順）：池田博明、石井清、井上尚武、梅林力、大久保光将、小澤実樹、小野辰嗣、笠原喜久雄、加藤むつみ、金野晋、萱嶋泉、木村正吾、木村知之、熊田憲一、桑原幸夫、後藤好正、小峰光弘、斎藤氏、笹岡文雄、佐藤幸子、篠原圭三郎、新海明、新海栄一、鈴木成生、高橋登、高野光男、谷川明男、中島晴子、西野洋一、萩本房枝、原山紀夫、平松毅久、布施佳子、前川隆敏、松本誠治、安田明雄

採集観察会の日程報告 第3回 10月13日（日）雨 巾着田 採集観察会 平松毅久

参加者（敬称略）；笠原喜久雄、佐藤尚子、佐藤幸子、鈴木成生、谷川明男、平松毅久、

布施佳子、新海明

仮目録（略号；M=雄成体、F=雌成体、m=雄幼体、f=雌幼体、e=卵のう、y=雌雄不明幼体、- =未確認）

マネギ'モ(y), カゲ'ヤヒメ'モ(F), オヒメ'モ(m,y), シロカネイソウウケ'モ(y), オガ'ケ'モ(m,y), シモリミジン'モ(y),
ハン'リオオカキ'モ(F), スネ'ロオカ'ヒメ'モ(y), サヒメ'モ(F), コヒメ'モ(y), チ'ボヒメ'モ(F), タテマテナガ
ケ'モ(M), アヨレ'モ(F), リケシ'モ(F), チ'アカサラ'モ(F), トウキヨウカムネ'モ(F), ユノハマサラ'モ(y), ハリケ'モ(f),
オケ'モ(y), ナガ'コガ'ネ'モ(F), チュウ'カコガ'ネ'モ(y), コ'ケコガ'ネ'モ(F,e), ゴ'ミク'モ(y), ヨリテ'コ'ミク'モ(Fm),
キンメタキ'ミク'モ(F,y), シロジ'ショウジ'ヨウ'モ(y), ガ'キド'ヨウ'モ(y), ド'ヨウオク'モ(F), ナガ'テオニ'モ(m,y),
ジ'ヨロウ'モ(F,M), ズ'グ'ロオニ'モ(M,y), カラトオニ'モ(y), トリフン'マシ(F), コ'ネ'モ'タ'マシ'(m), ヒメシナガ'ケ'モ
(F,M), オオシカキ'モ(F), アシカ'ケ'モ(F), ウロアシカ'ケ'モ(y), ヒラタ'モ(F,m,y), クサ'モ(M), コクサ'モ(F),
メ'ネ'チ'モ(F), ルサ'チ'モ(F), ア'マキシ'チ'モ(f), フ'イコモリ'モ(f,m), クロモリ'モ(f), ウ'キモリ'モ(y)
キ'ウ'キモリ'モ(F,f,M), イモモリ'モ(F), ササ'モ(f), カ'キモチ'モ(y), ムナカフク'モ(F), ヒメフク'モ(F),
オヒメ'モ(M,F), シボ'ケ'モ(f,y), キル'カニ'モ(f,m), カラカニ'モ(y), ハナ'モ(F,M), ワカ'ケ'モ(m,y), キンイリ'ケ'モ(y),
ヤトヤド'カリ'モ(f), ネコハエトリ(y), イケ'マカエトリ(M), キレハエトリ(f,m,y), アリ'モ(m,y), タイリカアリ'モ(y),
ミヌ'ルエトリ(F,y), マジ'ルエトリ(F,M), テ'ニツルエトリ(F), ア'ンソルエトリ(m) 70種

台風の影響で朝から雨。これで採集会3回のうち2回が雨。誰が雨男（女）かなどという無用（でもないが...）の詮索が好きなヒマ人は、参加者リストを見ていただければだいたい見当がつくでしょう。この天候なら最悪の場合、一人で採集かと思いきや、5月の採集会から参加されている笠原さんが既に来られていた。笠原さんを筆頭に悪天候をものともせず来て下さった人の半数以上が年配の方（こういう言い方は失礼だが）で、その台風のような熟年パワーを前に、元気のない若い衆の代表格である小生は、風に打ち倒された稻穂のように、ただただ頭を垂れるしかなかった。

「こら！若いもん、もっとしっかりせんかいっ！！」。冗談はさておき、いかにパワーのある人々をもってしても悪条件の中ではどうしようもない。なにせ雨続きでおクモ様はお隠れあそばしており、谷川さんを筆頭に奮闘したが、70種がやっとであった。挙げ句の果てに筆者は採集のとき、イラガの幼虫に右手小指をやられてしまい、何とも締まらぬこととなった。

採集が終わると恒例となった嶋田さんの店での二次会である。筆者を筆頭に静かな人ばかりであったが、それでも何とか会話を覗き、座がもっていたが、それも1時間半が限界であった。ついに恐怖の沈黙が訪れてしまったのである。その時、誰もが待ち望んだ救世主が現れた。それは宴会のスーパースター酒仙S氏であった。S氏はこの日の屋根造富士山で観察会に責任者として出ておられたが、わざわざこちらの二次会に参加して下さる旨連絡があったため、一同店の戸があく度にそちらを見ていたのである。S氏の加入により座が盛り上がり、めでたしめでたし。お疲れの処わざわざ来て下さったS氏並びに参加者全員に感謝する次第である。

雨ニモ負ケズ	-----	このあとみんなで酒が飲める
風ニモ負ケズ	-----	酒は百薬の長
雪ニモ	-----	熱爛やってあたたまろう
夏ノ暑サニモ負ケヌ	----	冷たいビール！
丈夫ナ体ヲ持チ	-----	採集で野山歩いてるもん
欲ハナク	-----	好きでなかったら、こんな一銭にもならんことやるかい！
決シテ怒ラズ	-----	目当てのクモがいなくても、それは運が悪かっただけ
イツモシズカニ笑ッテイル	…	ヒッヒッヒ、あの場所は誰にも教えんぞ！
ソウイフ人ニ私ハ…		

●クモの名前を知るポイントを教えます●

前号でお知らせしました通り、神奈川県立青少年センター科学課では、一般公開の「ミクロの世界体験セミナー」の一環として、1992年3月1日（日）に「（小さな）クモの名前を調べるコツ」という催しを行います。参加される方はできれば前もって電話をして下さい。

申し込み先 〒220 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 神奈川県立青少年センター 科学課
桜木町駅下車徒歩10分 電話 045-221-3131 内線 602 （科学課） ※

4

●新海栄一『冬のクモ』『アニマ』1992年1月号（平凡社）

すでに雑誌が店頭にならないので、注文しないと手に入らないが、冬のクモに関して野外採集の経験豊富な新海氏ならではの解説がされている。他のだれにも書けない内容である。もちろん写真はみごとであるが、それ以上に貴重な生態的な情報が盛り込まれた重要な論文であり、研究家にも愛好家にもお薦めできる。（池田博明。以下の出版案内も池田記）

●利己的遺伝子を紹介する懸念、傑作

利己的遺伝子は動物行動学の切り札となった。一般向きに書かれた本も出ている。例えば中原英臣・佐川峻『利己的遺伝子とは何か』（講談社）とか、竹内久美子『そんなバカな！』（文芸春秋社）とか。残念ながらこの2著はお薦め出来ない。前者は新聞記事の寄せ集めのような安易さで、この理論の魅力を紹介するのに失敗しているし、後者は代替理論を示さずに強引なこじつけをするという非科学的精神の産物だからである。特に竹内久美子は男と女、そして家族のことがよく分かっていない。おそらく彼女が結婚していないためだろう。

一冊を読むなら、ドーキンス『利己的な遺伝子』（紀伊国屋書店）が一番よい。この本は『生物=生存機械論』という題で販売されたものの増補改訂版であるが、あらためて読みなおしてみると、凡百の一般書よりずっと面白く、分かりやすいし、しっかりしている。

●ウォレス『マレー諸島』（思索社・宮田裕訳）

ダーウィンに『種の起源』を執筆させるきっかけとなった論文を書いたウォレスは採集家であり探検家であった。動物地理学上の功績も大きい。そのウォレスの有名な著作『Malay Archipelago』

が嘲諷された。私にとっては感慨深い一冊である。

技報堂出版の『クそのはなし』の「派手なクモ、地味なクモ」（池田執筆）の一節に、ウォレスが登場する。丘浅次郎は『生物学的人生観』で、鳥のフンに擬態してハナビラカマキリのように昆虫を捕らえているクそのことを「熱帯を旅するある博物学者」が記述していると書いた。この博物学者はウォレスかペーツであろうと推定した注がある。この注を付した事情を打ち明けておこう。

私はずっと以前に萱嶋先生から「〇〇の本にトリノフンダマシが葉の上で餌を探っているという記述があって、それでみんなそう思い込んでしまっていた。まさかトリノフンダマシが網を張っているなんて思えなかったわけだ。偉い人が言うと信じてしまう。こわいね」という話を聞いたことがある。私はこの〇〇をウォレスと記憶していた。そこで、「派手なクモ、地味なクモ」を書く段になって裏付けを取ろうと、洋書店に多分この本とねらいをつけた『Malay Archipelago』を発注、入手し、該当項目を探したのである。ところが、この本にはそんな記述は無い！クそのことは二ヶ所に出てくるだけだ。ひょっとすると〇〇はペーツだったかもしれないと思い始め、記述があいまいになったのである。しかし、訳者が出了たペーツの『アマゾンの博物学者』にもそのような記述はない。するとウォレスの他の本かもしれないのだ。『マレー諸島』では次のように記される。

”動物の世界ではおびただしい数の様々なクモとトカゲが特に花や葉の間に多く、しばしばまったく宝石のように美しい跳躍性クモ〔池田注：これは訳語が不適切である。正しい訳語はもちろん”ハエトリグモ jumping spiders”〕の多さや、その様々な色彩は、南アメリカの多産な地域を思い出させる雰囲気であった。網を張るクモの種類も今まで私が見たことがないほど多く、極めて厄介で、その網はちょうど私の顔の高さ辺りで道を横切って張られていた。しかも網を作っている糸は丈夫で粘着性があり、糸から自由になるにはかなりの苦労が必要であった。また、網の住人であり、体長二インチにそれと同じ長さの肢を持つ、大きな黄色の斑点のある怪物は、私が豪華な蝶を追いかけたり、あるいは奇妙な鳴声の鳥を探して上方を眺めている間に、鼻の上を走るので気持のよいものではなかった。私は間もなく、クモそのものを殺す必要があることを悟った。それともうのも、ある日、初めて、道を奇麗に片づけてみたが、次の朝、熱心なクモがその巣をまったく同じ場所に再び広げているのを見つけたからだ。”（pp419-420. 第30章アルー群島 より）

この節で「殺す」という言葉は異様に響く。ここで「殺す」と和訳されている単語は「destroy」である。これは「殺す」という訳では不適切であって、むしろ実現可能性のない「滅ぼす」という訳にすべきではないだろうか。つまりウォレスはクモの熱心さに感嘆してもいるのだから。

WATCHING ●歌舞伎、土蜘蛛の糸 小野辰嗣

先日、NHKのローカルニュース（1992年1月22日、20:45～）を見ていたら、歌舞伎の土蜘蛛で使う蜘蛛の糸を作っている人の話が出てきた。熊谷英男さんという55才の人で、江戸時代からの伝統芸をささえている一人だ。糸は和紙を鉛で加工した芯に巻いて、3mmの幅に切ったものを一つに束ねたものである。巻き方次第で糸のとび方も違うとのことだ。

編集部からの案内文 原稿をお待ちしています。

- 会誌編集；〒223 神奈川県横浜市港北区新吉田町1523 谷川明男
- 通信編集；〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099 池田博明

（5頁以下 編集部）

本年1月15日、岩手県のクモの先駆者で東京蜘蛛談話会会員でもあられる片岡佐太郎さんが逝去されました。先生のお名前はカタオカハエトリなどにも記されております。謹んで御冥福をお祈りいたします。（編集部）

- 〔近況報告〕 1991年12月開催の合同例会出欠葉書に書かれてあった近況より転載しました
- ◆藤井靖浩氏（埼玉県日高市）：大学カリキュラム改変などのため、クモのための時間が思うようにとれず、イライラが続いております。なお、10月1日に私の住んでいる町が市になったため、自宅の住所が次のようになりました。350-12：埼玉県日高市下高萩新田120-58
- ◆石野田辰夫氏（宮崎県佐土原町）：体育大会、文化祭、進路指導や個々生徒の学力診断など、遅刻防止や清掃をしっかりやりましょう等に、高校教員は雑務と時には言われる本務に走り廻っています。年忘れの薬ですから。クモの方は数名の生徒とジグモの生態調査を続けています。女子高校はクモを見て飛び上がってこわがる生徒、あら可愛い目をしていると興味を示す生徒などいろいろです。未来のお母さんにクモの味方になって欲しいと願って宣伝しています。盛会を祈ります。
- ◆山本一幸氏（兵庫県浜坂町）：来年、三田市に完成予定の自然系博物館（仮称）の依頼により、兵庫県内の河川流域のクモ類を調査しています。すでに昨年、一昨年と調査を進めており、今年で3年目。兵庫県は山陰と山陽の両方の気候と風土を持ち、河川も日本海と瀬戸内海に注いでおり、比較してみるとクモ相も違いが見られます。現在、本年度の調査データを整理中。報告の締切りが来年の1月12日と迫っており、これから少し忙しくなりそうです。p.s.大会のときに鳥取砂丘で採集したイソコモリグモのは、飼育中に逃亡をくわだて、現在行方不明。生存は絶望的かと思われます（とっても残念）。
- ◆片岡佐太郎氏（岩手県盛岡市）：本年5月17日から黄疸で岩手県立中央病院に入院。予備検査、手術等で8月30日まで100余日入院し、ようやく退院の運びになりました。初めこんなに長く入院すると思わなかったのですが思いの外長くなりました。3ヶ月半も入院したら脚、腰ともに萎えて歩行困難、どこにも出歩けない状態です。今毎朝起きて1時間ほど歩いていますが、今年いっぱいはどこへも行けないでしょう。
- ◆朝倉幹晴氏（東京都文京区）：まだ一度も顔を出していませんが、いつか顔を出したいと思います。高知新聞おもしろかったです。
- ◆加村隆英氏（大阪府茨木市）：9月23日に京都市の深泥池にミズグモの調査に行きました。参加者は関西在住の人たちを中心に10人。このときは談話会の平松さんもはるばる来ていただきましたが、残念ながらミズグモは発見できませんでした。
- ◆佐藤尚子氏（神奈川県横浜市）：9月末ごろお花屋さんのお店で0.8mmぐらいの大きなサツマノミダマシをみかけました。とてもきれいでした。仕事の都合で欠席します。
- ◆八木沼健夫氏（大阪府大阪市）：当日は他用と重なり、残念ながら出席できません。ご盛会を祈ります。皆さんによろしく。
- ◆上原健氏（東京都大田区）：谷川明男さんの紹介で、会員にしていただいたばかりで、いまだ観察会にも参加していない状況です。この夏、勤務地の東京港野鳥公園で見つけ、谷川先生に同定していただいたクモが珍しいクモ（セキグチコガネグモダマシ）だそうで、びっくりいたしました。
- ◆須賀瑛文氏（岐阜県可児市）：週に数日の専門学校講師以外は、毎日を勤（クモ）・植物の観察などに使ってています。
- ◆小滝一孝氏（東京都大田区）：川崎市青少年科学館の自然調査のお手伝いをしていますが、熊田さんには親切にご指導いただいております。お陰でクモへの興味が深まっています。
- ◆鶴嶋辰臣氏（鳥取県鳥取市）：9月19日～10月10日の3週間、北京の中国科学院動物研究所で、中国産ザトウムシの標本を調べてきました。秋の北京の気候はすこぶる快適で、食事もおいしく、研究所のスタッフにもいろいろと親切にしていただき、非常に楽しい日々でした。研究の成果のほうはいずれお目にかけます。
- ◆田中徳久氏（神奈川県横浜市）：新入会員です。クモは高校時代に少し見ただけで、その後は、谷川明男氏に採集品はおまかせしていました。（何と、名前入り（タイトルに）の論文をKishidaiaに書いて頂いた）。本当の専門は植物生態学です。
- ◆鈴木勝浩氏（埼玉県松伏町）：12月8日に、結婚することになりました。ネコハグモのオスがなぜか私の部屋のふとんにきました。10月24日

◆西條雄介氏（大阪府豊中市）：この夏は、ようやく手にしたファルトポート（折りたたみ式カヌー）で、十勝川と釧路川の川旅をしてきました。天気にあまりめぐまれず、かなりハードなものとなりましたが、夢のような日々でした。この秋も旅してみたいところがいろいろあちこちあるのですが、青春18キップがないのがいたいです。

◆福山研二氏（北海道札幌市）：本年をもって退会させていただきます。永い間ありがとうございました。

◆利岡匠氏（東京都世田谷区）：社会人になって2年たちました。日々の業務に追われ、忙しい毎日ですが、暇を見つけては、蜘蛛の観察をしております。

◆中平清氏（高知県春野町）：「老而学死而不朽」（オイテマナベシシテクチズ）を座右の銘として努めています。吉田真氏の『スパイダー・ウォーズ』に、アメリカのジョロウグモのメスの結婚は、世代をこえての結婚、いわゆる姉サン女房であることを紹介してありますが、小生はこの程やっと、アオグロハシリグモは日本の姉様女房であることを知りました。1988年アチプス（92）に予報的なことを書いてから後4年がかりでやっと結果がついたわけです。飼育してみなくてはなりませんので、永い年月を要し、時にはうんざりして投げ出したくなりますが、上記「銘」にはげまされて頑張っています。それから、変に思われるかも知れませんが、植物にも意思のようなものがありはしないか、と思うようになりました。

◆東條清氏（和歌山県海南市）：本年四月より県立高校の生物講師として週三日勤務しております。昨年七月「和歌山クモの会」を結成して活動しています。（現在会員10名）本年の観察会は南方熊楠先生ゆかりの田辺湾内神島においてクモ類の再調査を行いました。（事務局は小生宅）本年八月十八日、和歌山県由良町黒島でキジロオヒキグモを確認しました（♀）。（和歌山県初記録）

◆海老原憲昭氏（茨城県勝田市、小学4年）：クモの観察をはじめて3年目になります。今年はオニグモの体内時計を調べようと思いました。8月までは、日の出・日の入りに合わせてアミに出たり、かくれたりしていたのですが、9月をすぎたころから、暗れている日中でも、アミにいるクモを見ます。これはなぜだろうと考えているところです。

◆畠守有紀氏（福井県敦賀市）：まさかと思っていた大学院（滋賀大）に合格することができました。今まで特定のキシノウエトタテグモにだけ注目していましたが、これからはさらに多くのクモに接していくたいと思っています。（とりあえず身近なクモから覚えていこう——と思ったのですが、分類が思ったより難しく、あらためてクモの世界のおもしろさを感じているこのごろです。）

◆中島祥吉氏（東京都町田市）：10月に新しい職場に移り、仕事の把握につとめています。自宅を改築しているため仮住まいに不便な思いをしています。

◆井原庸氏（広島県広島市）：合同例会には、遠方のため出席できませんが、これからよろしくお願ひいたします。現在、ナミハグモやヤミサラグモなど、分化や変異の著しいグループに取り込んでいます。いまのところ、中国地方を中心にやっていますが、他の地域の標本をお持ちでしたら、一度みせてください。

◆近藤昭夫氏（神奈川県横浜市）：今年こそは合同例会に出られるようゆとりある計画をたてようと苦心しましたが、12月1日は法事と重なってしまいまたもや欠席の記録更新と相成ってしまいました。皆様によろしくお伝え下さい。写真暗室や顕微鏡観察用の小室を含み42m²のところに特別研究の4年生3名、MC2年1名、DC1年1名、それに私の6名がひしめきながら暮らしています。講義のこと、実習のこと、諸会議のこと、クモ学会事務局の仕事、自分のデータのことなど仕事の内容が変わる度にそれ以外の書類などは棚の上にのせたりポリ袋に入れ机の下に置いたりして仕事をしています。特研は3人ともジョロウグモを材料にして、一人は糸・糸疣・糸腺、もう一人は卵巣の基本構造を、最後の一人は胚発生と温度の関係を調べています。MC2の板倉君は修論まとめを目前に糸疣を走査電顕でみています。

◆林俊夫氏（群馬県大間々町）：いつも楽しく談話会通信を読ませていただいております。担当者のご苦労工夫がよくうかがえます。盛会をお祈り致します。

◆小澤實樹氏（東京都世田谷区）：'91夏、合宿でみた、屋形づくりのM r. カバキコマチグモについて、今なんとかまとめようと懸命です。生まれてはじめてクモのことについて講演してみます。

◆小野辰嗣氏（東京都新宿区）：鳥取での日本蜘蛛学会の大会なかなか盛会でした。来年は長野県で“東京蜘蛛談話会のメンバー”を中心になって開催する予定になっています。

- ◆佐藤幸子氏（神奈川県横浜市）：10月3日玄関に大きなクモの脱皮ガラが落ちていました。10月4日夜8時頃、ベランダに面したガラス戸にアシダカグモの雄が姿を現しました。猫に見つかると大変なので、大急ぎで物陰に追い立てました。見事な成体でした。
- ◆竹岡文雄氏（東京都豊島区）：先日は雨の中、初めて夜間の野外観察へ出ました。どうもこここの所出不精がひどく、他人様に説いていただかないと動けなくて困っています。
- ◆井上尚武氏（茨城県勝田市）：初めて参加致します。今回入会させて頂きました。新海様や皆様のおとり計らいに御礼申し上げます。小生、昆虫が中心ですが、採集調査の折、茨城県の海岸で見つけたイソコモリグモに大変興味をおぼえました。専門外ですが、土壤動物の会にも入っており、クモ専門の方も知っております。何とぞよろしくお願い申し上げます。
- ◆後藤好正氏（神奈川県横浜市）：転勤したばかりで西も東もわからず何もしていません。来年から学校周辺のクモの採集でもしようかと考えています。なんとか100種くらいは記録したい。
- ◆萱嶋泉氏（東京都日野市）：日野市では日野市動物ガイドブックを2年がかりで作ることとなり私は林秀幸氏の協力を得てクモ部門を担当している。これまでに判明したことがらを報告したいと思う。
- ◆小池牧子氏（東京都江戸川区）：長男（満1歳）をとりあえず“ムシ好き”にしようと赤トンボなどをつかまえてみせたり、さわらせたりしています。
- ◆萩本房枝氏（神奈川県横浜市）：先日、ススキの葉の間に巣をはっているナガコガネを発見。毎日通るところに巣をはっているので、ナガコガネの交接でも見ようかとのしみにしていたのですが。なぜか台風の多い今年。台風にも負けずにクモを見に・・・。アレ、巣がない！次の日クモも巣もないのです。クモは今年の“風台風”に飛ばされてしまったのでしょうか。少し残念です。
- ◆梅林力氏（東京都杉並区）：毎日学芸会の準備のため、働いています。授業もしていますよ。週休2日制が早く導入されないかなあ・・・。
- ◆笠原喜久雄氏（埼玉県浦和市）：今年の5月に談話会に入会させていただき、身近にいるクモの名前がわかるようになればと思いますが、なかなか思うようにはいきません。例会での皆さんの研究成果が聞けるのが楽しみです。
- ◆加藤むつみ氏（千葉県千葉市）：カブトガニの脱皮のVTRやっとできたんですよ・・・・・フフフフ
・・・・もううれしくて・・・・
- ◆大久保光将氏（千葉県千葉市）
◆谷川明男氏（神奈川県横浜市）
◆大石洋人氏代理征夫氏（東京都小金井市）
◆新海栄一氏（東京都国分寺市）
◆新海明氏（東京都立川市）
◆古川涉氏（東京都武藏野市）
- ◆平松毅久氏（埼玉県川越市）
◆木村正吾氏（静岡県清水市）
◆鈴木成生氏（東京都文京区）
◆池田博明氏（神奈川県大井町）
◆千国安之輔氏（長野県豊科町）
◆熊田憲一（神奈川県横浜市）

（住所録訂正：1991年8月31日号）

- p. 1 粟野 和代 → 粟根 和代
 p. 5 榊沢 新太 → 榊沢 新
 p. 6 佐々木勝實 〒983 → 〒981：tel 022-75-0128 → 022-234-5091
 p. 7 鈴木 成生 音羽1-6-8 → 音羽1-16-8-904 03-3943-6804

事務局（会計を含む）〒221 神奈川県横浜市神奈川区片倉町199 熊田 憲一
 領収証の必要な方は振替用紙通信欄にその旨お書きください。

訂正・変更等がありましたらお早めに事務局熊田までご連絡下さい。

会計だより 郵便振替口座 東京 7-74885 東京蜘蛛談話会

△費領
△費支領

1991年9月～ (敬称は省略させていただきます)
1992年1月中旬 (一般2800円・学生2000円)

1990年(平成2年)度

関下 俊英A192.

1991年(平成3年)度

栗根 和代A175・田中 徳久A176・海老名憲昭A177・小峰 光弘A178・高橋 登A180・井上 尚武A181・
片岡佐太郎A182・木村 英二A183・福山 研二A184・浜口 哲一A185・米田 宏A186・権田 重雄A187・
八木沼健夫A188・大久保 裕A190・関下 俊英A192・林 秀幸A193・八幡 明彦A194・日下部光代A195・
木藤 幸雄A196・木村 知之A198・安田 明雄A199・柳沢 新A204・岡村 宏A205・利岡 匠A206・
佐々木勝實A207・甲守 崇A208・山田三重子A209・板倉 泰弘A214.

1992年(平成4年)度

栗根 和代A175・佐藤 幸子A178・佐藤 尚子A178・高橋 登A180・片岡佐太郎A182・浜口 哲一A185・
権田 重雄A187・八木沼健夫A188・笠原須磨生A189・大久保 裕A190・関下 俊英A192・林 秀幸A193・
八幡 明彦A194・日下部光代A195・木藤 幸雄A196・大久保光将A200・前川 隆敏A202・中島 啓子A203・
岡村 宏A205・利岡 匠A206・佐々木勝實A207・山田三重子A209・藤井 靖浩A210・松田まゆみA211・
笹岡 文雄A212.

1993年(平成5年)度

笠原須磨生A189・梅林 力A197・緒方 清人A213.

○会費の問い合わせには受付番号(A000)を明記
してください。

会費の納入状況につきましては、宛名氏名に記入してある年号を御覧下さい。記入してある年号まで会費が
納入されております(1992年1月中旬現在)。会費は前納制ですので、まだの方はお早めに納入をお願い
します。

会員移動

(入会)

田中 徳久: 〒254 神奈川県横浜市泉区岡津町1500-2 ルネ戸塚弥生台401 045-813-6017
海老名憲昭: 〒312 茨城県勝田市松戸町1-6-1 (学生) 0292-73-9621
井上 尚武: 〒312 茨城県勝田市高野185-97 0292-85-6843
安田 明雄: 〒231 神奈川県横浜市中区元町5-219 045-641-0763
前川 隆敏: 〒220 神奈川県横浜市西区中央2-51-12

(住所変更)

高橋 米夫: 〒319-35 茨城県久慈郡大子町北田気544-2 航空宿舎201号
吉谷 昭憲: 〒226 神奈川県横浜市緑区鴨居4-29-5 046-935-3593

(退会)

木村 英二・福山 研二(希望退会), 米山 明美(規定摘要退会)

クモと映画・補項

笹岡文雄

談話会通信 No.68('90.2.20)で紹介したクモの映画は、今日本でどれだけ見ることができるでしょうか。'91年末現在では、以下のとおりAV製品化されているものが少ないので、多くはいつあるかもしれないテレビの深夜放映か、衛星放送にたよるしかありません。また発売されているものはすべてVTRソフトで、その他のAV製品は発売されていません。

昨年はスピルバーグ製作「アラクノフォビア」の公開もあり、今回新たに見つけたクモ映画6本を追加します。

クモ

「放射能X」	('53, Them!, 米)	未発売
「タランチュラの襲撃」	('55, Tarantula, 米)	未発売
「縮みゆく人間」	('57, The Incredible Shrinking Man, 米)	未発売
「吸血原子蜘蛛」	('58, The Spider, 米)	未発売
「月へのミサイル」	('58, Missile to the Moon, 米)	未発売
「X星の不思議な世界」	('58, Strange World Planet, 英)	未発売
「巨大アーベーの惑星」	('60, The Angry Red Planet, 米)	未発売
「007／ドクター・ノオ」	('62, 007/Dr. No, 英)	ワーナーホームビデオ
「地獄の蜘蛛」	('66, Aranas Infernales, 墨)	未発売
「リヤイント・スパイダーの大襲撃」	('75, The Giant Spider Invasion, 米)	パクインビデオ
⇒ ビデオ発売名「リヤイント・スパイダー大襲来」		

その他

「カマキリの脅威」	('57, The Deadly Mantis, 米)	未発売
「緑の地獄から来た生物」	('57, Monster from Green, 米)	未発売
「黒い蠍」	('57, The Black Scorpion, 米)	未発売

追加

「吸血の群れ」	('72, Frogs, 米)	アスキーベストロン
「タランチュラのキス」	('72, 原題不詳、米)	東芝EMI
「毒蜘蛛タランチュラ・死靈の群れ」	('77, 原題不詳、米)	廃盤
「巨大グモ軍団の襲撃」	('77, Kingdom of the Spiders, 米)	廃盤
「ムーンウォーカー」	('88, Moonwalker, 米)	東映ビデオ
「アラクノフォビア」	('91, Arachnophobia, 米)	徳間
		EPICY-
		ボニーキャニオン

清澄だより (1) クモガタガガンボを追って

新海 明

房総丘陵を貫く久留里線の終着駅上締亀山で大阪からジープではるばるやってきた金野晋さんと待ち合わせて、我々は一路東大千葉演習林の郷台へと向かった。クモガタガガンボというのは無翅の双翅類で林床を徘徊するクモに似た昆虫であるが、金野さんはこのクモガタガガンボを追って昨秋に続き2度目の清澄行であった。この昆虫は冬、特に雪が降った後に良く見られるとのこと、砂糖水入りのピットホールトラップに落として捕られるという。今から20年程前に私が清澄寺の仏舎利付近でみつけたことがあるという情報を唯一の手掛かりとして、是非とも房総半島のクモガタガガンボを手に入れたいということで、この日の採集計画となつたのである。郷台下の疎林中にトラップを仕掛け、後は運を天に任せるだけである。

郷台は千葉演習林の中の3つの作業所のひとつで、電灯は自家発電、水は湧き水をポンプで汲上げて使うといったように都会では考えられないような別天地である。宿舎は大正年間に建造されたもので、木造平屋建ての大きなものである。いつものように皆で手分けをして夕食の準備が始まる。今日は水炊きであった。外に植えてある柚の木からもいだ柚を使う。堀り炬燵を囲み、あとは無制限一本勝負である。飲みながら食べながら眠くなるまで、あれこれと話が弾んだ。少々勢いがついたところでゼミとなる。障子をスクリーンにしてスライド映写が始まる。今晚は東大の森林動物の浅田正彦さんのシカにつくヒルの食痕についての大変に興味深い話であった。この話の詳細はここで述べないが、私の勘では1~2年のうちに有名になる話ではないかと思うので、それまでのお楽しみということにしよう。残りのひとつは私が富士山でやったキンヨウグモの網と餌についての話だった。あれやこれや静いと共に議論はあっちこっちに動いたが、この晩は珍しく午前0時前にお開きとなった。

翌日はどんよりと曇った生憎の天気だったが、クモガタガガンボにとっては寧ろ良いとのこと。宿舎の片付けをしてから郷台下の林に向かった。しかし、結果はまたしてもダメだった。もう20年も前のことだからとか、絶滅したのではないかなどと私は弱気だったが、金野さんはあきらめない。林道わきにジープを止めては落葉の中を探し続けていた。昼すぎに仏舎利に来る。ここでかつて私はクモガタガガンボをみつけたことがあるのだ。しかし、ここでは大量のキノボリトタテグモをみつけてしまい、我々はしばしキノボリ採りに熱中した。この採集品は滋賀大学でクモタケの研究をしている談話会の会員の畠守有紀さんへのお土産として、金野さんに持ち帰ってもらうことにした。この日は結局、クモガタガガンボは全く採れずに残念な結果に終わってしまったが、私にとってはこの奇妙な昆虫を知るいいきっかけになった。冬の林床でクモのような昆虫をみつけたら、ひょっとするとそれはクモガタガガンボかも知れませんよ。一度挑戦してみてはどうですか。

{97}



ג'ז

「アリ。ハーリーは、おまえの隠すところがないよ。」

はな 花と鼻



え・やまだ みどり

<佳作>名古屋市千種区・小杉豊子、
愛知県海部郡・小林千代美、岡崎南市・
大坂登子、静岡県富士市・佐野元美

「なにや、そんな顔し。なにがあった
？」
「あ、おまえの顔がおかしい。あか
ねや！」

「おまえの心は、まだおまえの心だよ。」
「おまえの心は、まだおまえの心だよ。」
「おまえの心は、まだおまえの心だよ。」
「おまえの心は、まだおまえの心だよ。」

「ハキラシハアリタ。カレ、アホハシタ
ハアリタ。タマガキハ、ハキラシハアリタ。
ハキラシハアリタ。」

「やがて重なれば、誰かがこゝで
死んでゆく」

「アレ」
トベサハトシヤマタガシムトモアリ

うのか よくわからなかったわ。とにかく、

